

令和 8 年度 第 2 回 小田原市社会教育委員会議 概要

日 時：令和 8 年 8 月 20 日（木）午後 2 時から午後 4 時 15 分まで

場 所：小田原市生涯学習センター本館 第 2 会議室

委 員：笹井議長、木村副議長、有賀委員、石川委員、梅原委員、尾野委員、川北委員、
齊藤委員、高島委員、高橋委員、箕輪委員

職 員：和田文化部長、門松文化部長、美濃島子ども若者部長、早野文化部副部長、
竹縄文化部副部長、遠藤生涯学習課長、蓮見スポーツ課長、一寸木生涯学習課副課長、
原生涯学習課係長、穂坂生涯学習課主査、高橋生涯学習課主任、廣瀬生涯学習課社会
教育指導員、大谷生涯学習課社会教育指導員、古矢生涯学習課社会教育指導員、杉山
図書館主任

傍聴者：なし

概 要

1 委嘱状交付

教育長に代わり、和田文化部長が委員 11 名に委嘱状を交付した。
（山田委員は欠席）

2 文化部長挨拶

和田文化部長から挨拶をした。

3 委員紹介及び職員紹介

資料 1 に沿って委員が自己紹介し、資料 2 に沿って出席職員も自己紹介した。

4 議長選任

前副議長の笹井委員が議長、前議長の木村委員が副議長となることに全会一致で決定した。

5 報告事項

（1）公共施設の使用料見直しについて

資料 3 及び参考資料 3－1、3－2、3－3 に基づき、一寸木副課長から説明した。

【箕輪委員】多くの施設が市民、市外で同一料金かと思う。運営費に市民税が使われていることを考えると、市外の方が利用した時の使用料に差額を設ける検討をしてはどうか。

【一寸木副課長】市内市外の料金の取り扱いについては施設ごとにバラつきが生じているのが現状である。市税を投入する上では、市民と市外の方の価格差は設けるべきとの意見があ

ることは承知しているが、それについては今回の料金改定ではなく、今後の課題として別途検討していく予定である。

【高島委員】 アンケート結果から、2つの切り口で質問がある。

一つが、税金と利用者負担の割合を将来的に5割ずつを目指していくとして、今回の2割という値上げ幅でどれくらい達成できているのかということ。

もう一つが、本来は設備等が古くなっている中で、本来必要な費用に対し、この2割という値上げ幅が適切なかどうか。

【一寸木副課長】 今回の使用料2割の値上げでは、税金と利用者負担が5割ずつになるわけではない。

現在、施設ごとに使用料金も異なるため、税負担が何割で利用者負担が何割であるとは今の時点でははっきりとは言えないが、市で考える適正な受益者負担が達成できているかという、今後、何回か段階的に料金見直しをして、適正な受益者負担の割合に近づけていく。

今回の2割値上げで適正な負担割合になる施設は0である。2割の値上げを2回行うことで適正な価格になるのが5施設、文化部所管では、けやき、松永記念館、城山庭球場となっている。5回の見直しをした場合に適正負担になるのが、小峰庭球場。使用料見直しを5回しても適正負担にならないと算定されているのが、国府津学習館、尊徳記念館、小田原文学館、城山陸上競技場、城内弓道場となっている。

【梅原委員】 アンケートでは「値上げ幅は10%以内」が32%と最も高い回答であるが、今回の値上げ幅を20%増とした理由はなにか。

【一寸木副課長】 昨年度に料金改定の条例案を示した時には現行料金の1.5倍にする案であったが、審議の結果、市民アンケート等で利用者の声を聴いてから判断することとなった。市民アンケートを経て、1割増だと市の考える適正な受益者負担には届かないが、3割増だと市民の納得感を得られにくい状況のため、まずは2割増の案としている。

【梅原委員】 今後も複数回の使用料見直しが想定されるが、次の見直しは何年後の予定なのか。また、次回も値上げ幅は今回と同じく2割なのか。

【一寸木副課長】 次回も2割増かどうかは決まっていないが、概ね3年で見直しを検討する予定である。ただ、必ず3年後かどうかについては、まだ未定である。

（2）前期活動報告書の概要版について

資料4に基づき、原係長から説明した。

【有賀委員】 分かりやすくまとめていただいたと思う。この概要版の周知の仕方については、どのように考えているか。広く一般市民にも周知していくのか。

【原係長】生涯学習をどう支援していくかというテーマなので、支援者側に届くような周知を考えている。庁内では社会教育関係課へ共有するほか、市ホームページにおいても広く一般に公開していく。

【高島委員】すごく大事な視点が書かれていると思うが、最終的に活動報告の内容を達成していくと、最後に書いてある「本市のまちづくりの一つである『未来を拓く人が育ち、地域のきずなが結ばれる小田原』の創出」に繋がるという理解で良いか。

【原係長】今回、生涯学習をどう支援するかというテーマで御議論いただいた。4つの視点の中でも、生涯学習の成果として「学びを活かす」という項目もあるため、おだわら市民学校が担い手を育成しているように、生涯学習の支援の結果、最終的にはまちづくりに繋がっていくものと考えている。

【高島委員】前回の議論のアプローチとして、必要なことをまとめた結果がこの活動報告なのか、最初から逆算的に「未来を拓く人が育ち」というまちづくりを目指して必要な要素について議論をしてきた結果がこれなのか、どちらになるか。

【遠藤課長】最終的には「未来を拓く人が育ち」というところは目指してきた。前期の前から生涯学習について検討してきた中で、コロナ禍を経て人と人との結びつきが希薄になっており、けやきの利用率や地域の集まりも少なくなってきた。そういった状況の中で、人と人との学びの継続などをどうしたらいいかという視点で委員に話し合っていた。まだアイデアをいただいた段階なので、今期は具体的にどう反映させるのかを議論していただきたいと考えている。

【笹井議長】4つの視点で活動報告にあるが、「出会いの創出」はどう測るのか、「学びの継続」はどのように評価するのか、そういった抽象的な段階であったものを、今期により具体的にしていくという方向性は、おそらく正しいのだろうと考えている。

6 基調講話

資料「社会教育と行政施策」に基づき、笹井議長から基調講話があった。

現代の社会教育における「仲間同士が関わり合うこと」がなぜ学びなのか、学校教育と社会教育との相違、社会教育行政を実施する際の基本的視点などについて講話があり、社会教育委員の役割として「地域と行政をつなげる人」であるとの理解を委員と共有した。

7 協議事項

(1) 今期の社会教育委員会会議の進め方について

資料5及び参考資料5-1に基づき、原係長から説明があった。

【笹井議長】前期活動報告書にあった方向性を、施策としてどう実践していくのかを今期は検討していくとなっている。委員それぞれによって、優先順位や、やっていくべきだと

いうところもあると思うので、率直な意見をいただきたい。

【齊藤委員】 次回、来年2月の会議について、現在の生涯学習の状況についてはすでに参考資料が示されており、10年前に比べてさまざま減少傾向にあるのは見て取れるが、現状に対してどうしたらいいかという考え方は、いったん止めてはどうか。

1つは、ニーズを把握するときに、小田原市の出入りしている人口動態、どういう年代の人がいるのか、若者や子どもが減っているなど、小田原市の状況がどうなっているのかを把握して、その中でどういう人たちにテコ入れをして育てていくのか、全体的にターゲット層を絞っていく必要がある。

現状の課題でいうと、利用者層が固定化している、担い手が高齢化しているなどは、小田原に限った課題ではない。5年後、10年後の小田原の未来図を考えたときに、関係性を作っていく「つながり戦略」を、どの世代に集中して育て、小田原を好きになって、小田原に移住したいという人を増やすのかなど、全体的にどの方向性にしていくのかが、今回導入していくべき考え方であろうと思う。

2つめに、キャンパスおだわらの立ち上げから関わっているので良さも分かっているが、少ない人数で講座数が多すぎたり、サービス提供型になりすぎている、社会教育指導員が疲弊したりといった課題もあったと思う。キャンパスおだわら、おだわら市民学校の受講者が、受講後に定着して仲間を作ったり、サークルを作って自分たちで動いていく、そういった人材をいかに育成していくか、もう少し数値目標も決めていくことも必要なのではないかな。

3つめに、講座を受講して終わりではなく、地域に貢献していく人材を育成していくことが非常に重要なのかと思う。自然にボランティアが発生するものではなく、意図的にボランティアを楽しく思って動き始める仕掛けを作っていくというのは、既存事業をどうするかだけでなく、こうした人材育成の要素を新たに入れる必要もあるかなと思う。

【有賀委員】 今期の会議のポイントとして、前期の4つの視点を元に7つのアイデアを、どう事業展開に反映させるかという趣旨かなと思うが、今期のタイトルは決まっていないのか。

【笹井議長】 具体的なタイトルは決まっていない。決まっているのは、テーマとして前期のポイントをどう具体化していくかという方向性である。本日は委員の皆様の感じていることを話してもらったうえで、次回以降の議論をどうしていくか考えていきたい。

【有賀委員】 ある程度、行政からのたたき台を準備してもらった方が、議論は進みやすいと思う。回りの会議で委員の興味に基づきテーマを決めたとして、その後は3～4回しかないの、実現していくには時間が足りない。事務局である程度タイトルやサブテーマを定め、焦点化をしていただければと思う。

【笹井議長】 資料5の市民ニーズの把握は、今後の前提になると思うが、話し合う順番は案の

とおりである必要はない。具体的な事業に沿って考えていくことになると思う。

【高島委員】 市民ニーズの把握とは、どのようなニーズを把握しようとしているのか。

単純に学びたいという個人のニーズなのか、どんな分野の地域貢献につなげたいという社会的なニーズなのか。行政の施策として、生涯学習を地域貢献に結び付けたという思いもあるかと思うが。

【笹井議長】 ニーズと言っても大きく分けて2つある。個人の「学びたい」という意欲と、たとえば地球温暖化の問題のように社会的に必要性があって「学んでほしい」という課題がある。単純にアンケート調査だけではなく、色々な形で掘り起こしていきたい。社会の必要性については、既存のデータや報告書などでも分かると思うが、具体的な市民、たとえば若い人は何を求めている、高齢者はどう思っているかなど、学んでいる人のうち何パーセントが「地域で活動したい」と思っているかなど、そうしたことを立体的に把握していくことが大切だと思う。

もちろん、多くの小田原市民一人ひとりのニーズまでは分からないが、行政がそれにどう関わっていくのか、つまり公共性があるのかどうかという観点で、市民ニーズは重要だと考えている。

【梅原委員】 市民の皆さんに「こういうことを学びたい」というニーズがあるとして、地域のためになるのか、単に学びを楽しむだけでなく、地域貢献に繋げる必要があるのか。それとも、地域関係なくサークルを作って学びたいとか、小さな目的でも良いのか。ボランティアで地域貢献をしなければならないのか、とあると大層なことをしなければならないのかという感覚もあると思う。

たとえば、ボランティアもまったく無償で地域貢献しなければいけないのか、「有償でも何かを教えますよ」というレベルでも良いのか。

【齊藤委員】 ボランティアの認識としては、必ずしも社会貢献だけでなく、関係性を作って「お誘いボランティア」というものでも良い。ボランティアという言葉を使わず、新しい言葉を生み出しても良いと思っている。

【梅原委員】 楽しくやりたいけれど、地域に根差さなければならないのか。小田原を出てほかのチームを作るとか、西湘地区として活動してはならないのかなども考えてしまう。地域貢献というと、重みが出てしまうと感じている。

【笹井議長】 地域課題というと、市民の悩みや困りごとを解決するというマイナス課題に思えるが、プラスの課題というのものもある。たとえば、「みんながやりたいなら音楽サークルを作ってもいい」、「地域の名産品がほしいなら作ってみよう」など、みんなが元気になるための課題もある。そういうものを実現していくことも地域貢献だと思う。

【箕輪委員】 小田原では新しい学校づくり検討委員会ができて、小中学校の枠組みが変わる渦中

に入っていこうとしている。社会教育委員会には学校教育や家庭教育という枠組みもいるが、そういった動きと一緒に考えてないと、もったいないと感じる。すごく難しい時期に入ったという印象があるが、地域の良さ、学校の良さ、両方を守っていくことができるのが社会教育なのではないかと、基調講話を聴いて思った。今後、新しい学校づくり検討委員会の検討結果が出てくるが、社会教育委員会としても把握しながら進めていく必要もあるのかとも思う。笹井議長としては何かイメージしていることはあるか。

【笹井議長】新しい学校づくりはとても大きなテーマであり、今まさに検討が動いているところ。今期の社会教育委員会設置期間中に明らかになったことがあれば、それを前提として議論を進めていくこともあろうかと思う。ただ、別の検討会の動きなので、明らかになっていない段階であれば、現状を前提に何が必要かを考えることになる。学校教育も7つのポイントに入っているが、新しい学校づくりについては、今期の掘り下げからは離れておくという方法もあるのではないかな。

【原係長】先ほど高島委員からどのようなニーズを把握したいのかという問いがあった。前期の活動報告書には4つの視点があるが、これらは学びの入口から出口へのグラデーションになっており、市としても色々な段階のニーズを把握したい。「出会い」としては、生涯学習にまったく関りがなかった方が、何がきっかけで興味を持って学び始めるのか、どのような講座を開いたら良いかも知りたい。「学びの継続」という意味では、講座を受講した方が、どうしたら団体になって一緒に活動しようとするのか、サークル団体の新設を促す取組も試行している。「学びを活かす」という意味では、キャンパス講師の方から「特技を教えたいが、もっと受講者を増やすにはどうしたらいいか」という教え手側のニーズもある。こうしたニーズがどこにあるのか、うまくいっていない要因としてどんなところ課題があるのかが分かれば、今後の事業にも反映することができると考えている。

【笹井議長】7つのポイントについて、優先順位などの考えがあれば委員の御意見をいただきたいが、本日のところはないようなので、次回のテーマは事務局に準備していただく。次回の会議の中で、優先すべきテーマなどの御意見があれば共有していただきたい。

8 事務連絡

(1) 次回の開催日程について

事務局から、次回の開催日程は2月との提案があり、委員から異論はなかった。

(2) 令和8年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会について

委員の参加希望があれば、8月21日（金）までに事務局に連絡することとなった。

閉会